

質疑応答（Q. 会場からの質問, A. 講演者回答, C. 会場からのコメント）

【3. 国際標準化専門家ネットワーク整備事業について】

北川 順久, 森下 美奈子（発表者）

追加質問可（2013-12-20 まで）

概要：

国際標準化活動において、専門知識やノウハウをもった人材が不足しており、円滑な活動を進めるのに支障となっているケースが増えてきた。そこで、国際幹事やコンビーナ等として国際標準化活動を行ってきたベテランを支援が必要な組織に紹介する事業を開始した。

J S A が、標準化専門家を募集・登録しておき、企業・団体・大学等の組織からの依頼を受け、その依頼に適切に対応できそうな専門家を紹介する、というものである。J S A は、標準化専門家が登録する際、提出されたエントリーシートに記入してある経験や知識・能力等をもとに、組織などが要望する知識・能力等とのマッチングを行う。

本年度に関しては国費事業の再委託というスキームを採用しているため、マッチしたと思われる人物を一人ずつ紹介し、組織と標準化専門家との合意が成立すれば、組織がその人物を雇用するという形をとっている。J S A は最大3人まで紹介する。

Q. ニーズの対象をもっと不十分なところも入れるべきではなかろうか。そもそも、ニーズがはっきりしていてその支援を受けたいというところよりも、ニーズがあいまいでどうしていいのかわからないところのほうが多いのでは？これだと、大企業しか応募できないように思う。

A. たしかに大企業寄りの応募条件になっているように思う。来年度に向けて METI と相談しながら条件を再検討したい。

Q. 具体的に何件くらい応募があったのか。

A. マッチングが成立したニーズは2件。そのほか、問い合わせ段階で本事業の趣旨に合致しないと判断されたものや、応募資料が提出されたが応募要件に達しないとして選考にいたらなかったものは、多数あった。

Q. 日本規格協会が開発した評価シートは、入手し自分で評価することができるのか？企業や団体で標準化活動を行っている人のレベル評価に活用できると思う。

A. エントリーシートは問い合わせてもらえれば提供できる。しかし、評価自体は提出されたシートをもとに日本規格協会の計算式で行っている。その計算式は、提供できない。

Q. 計算式は線形か非線形か？また、重みづけをしているのか？

質疑応答（Q. 会場からの質問, A. 講演者回答, C. 会場からのコメント）

A. 線形。

なお、ポストごとに各知識・能力の重みづけを行い、国際幹事としては何点・コンビーナとしては何点、などと各自の得点が出るようになっている。

Q. 評価シートは今年公開された標準化スキルスタンダードを参考にしているということだが、現状は少し簡単すぎるように思う。せっかくなので、もっとそれを活かした評価シートにして配布すれば、スキルスタンダードが普及すると思うが。

A. (会場から) それなら、標準化スキルスタンダードを作成したチームに作ってもらったほうがよい。

(発表者から) エントリーシートにおける評価と、標準化スキルスタンダードによる評価は、別々に取り扱っている。

標準化スキルスタンダードは、企業内で上司が部下を評価することを念頭において作成されたものであり、エントリーシートをもとにした評価（V0）は、国際幹事等のポスト経験を積んだ方を対象にしたものである。本事業においては、ポストごとに要求される知識・能力等が異なる点を考慮して評価する必要がある、ポストが考慮されていない標準化スキルスタンダードをそのまま評価に使用することは困難であるとの結論に達した。

現在、エントリーシート内の各項目をより正確に評価できるようにするため、標準化スキルスタンダードの表現に基づいたガイドライン的なものを作成すべく検討中である。

Q. 標準化専門家としての登録の期間延長はできるのか？

A. 可能。再度エントリーシートを提出してもらうことになる。

Q. 常勤ということだと現役の人に雇用の問題が発生すると思うが。

A. 雇用といっても、必ずしも常勤ではなく、非常勤やアルバイトなどの雇用形態のほか、国際会議前などのスポット的な支援も想定している。

なお、少なくとも本年度のスキームが雇用に前提としている点において、現実には現役（フルタイム勤務）の方を紹介するのはムリだと思う。

Q. 競合する2社がそれぞれ同じテーマで申し込んできたらどうマッチングするのか？片方にだけマッチングするのか、それとも両方？

A. 両方にそれぞれマッチングを行うことになると考えられる。

Q. 申し込んだ会社へ紹介する専門家が競合会社を退職した人である場合の配慮は何かあるのか。

A. とくにない。マッチングの時点で応募組織・標準化専門家のそれぞれにご判断いただくチャンスがあると思う。

第12回国際標準化教育研究会（2013-09-05@金沢工業大学 虎ノ門キャンパス）

質疑応答（Q. 会場からの質問, A. 講演者回答, C. 会場からのコメント）

Q. 申し込んだ会社が特定の専門家を指名できるのか。

A. 指名はできない。

Q. 幹事やコンビーナのポストに就任できる可能性のある人材を要望することは可能か？

A. 可能。

Q. もしそうなら、単年度だけの雇用では無理だが、いまのシステムは単年度。どうするのか。

A. 現在では単年度で修了。なお、国費事業自体は本年度を含め3年間の継続が見込まれる。応募組織への支援継続が次年度以降認められることは考えられる。その場合も、空白期間、つまり本事業終了予定日2013年2月21日から新年度の支援開始（5月か6月ごろ）までについて必要であれば、応募組織と標準化専門家との契約になると思う。本事業による支援を次年度以降継続しない場合も同様。

Q. 幹事や議長の場合は、申し込んだ企業や団体だけの意思では決められず、ISOやIECのTCなどで合意されなければならない。候補者として申し込むことになるのか。

A. そのとおり。

Q. 一人の人を2つの会社にマッチングすることはあるのか。

A. ない。